KKR-015

エコアクション21
認証番号 0001461

環境経営レポート

日本フイルター株式会社
米沢事業所

NiF

第65期

【2019年10月1日～2020年9月30日】

2020年12月23日　発行

目次

1. 会社概要 ・・・

1. 会社概要

1)登録事業所の概要
●EA21認証・登録番号(0001461)
(1)事業者名及び代表者名
事業者名　：　日本フイルター株式会社　米沢事業所
代表者名　：　所長　宮下 貴司

(2)所在地　郵便番号　：　〒992-1128
住所　：　山形県米沢市八幡原3丁目446-10

(3)環境管理責任者及び連絡先
環境管理責任者：　次長　時田　延之
連絡先　：　TEL)　0238-28-1751　FAX)0238-29-0019
E-mail)　nobuyuki.tokita@nihon-filter.co.jp

(4)事業内容
・精密ろ過機の製造
・純水製造装置の製造
・排水リサイクル装置の製造
・装置メンテナンス

(5)事業規模　会計年度:当年10月1日～翌年9月30日

項目	単位	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期
主要製品工場出荷高	百万円	562.9	609.3	711.0	537.1	495.3
従業員数 注1	人	41	42	42	42	42

注1)期末人員数

2. 実施体制

1)EA21実施体制

代表者
米沢事業所　所長　宮下 貴司

環境管理責任者
米沢事業所　次長　時田　延之

環境事務局
深井 満・和田 朱美

法規制管理責任者
賦舩 秀雄・和田 泰一

実行責任者

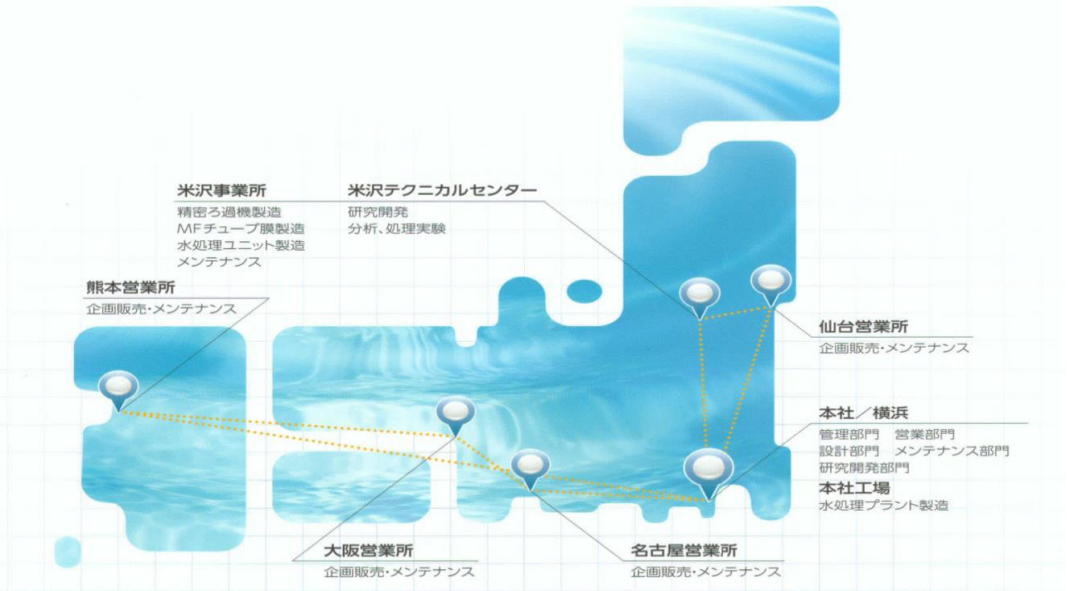
ろ過機製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ	ユニット製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ	膜製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ	梱包・出荷ｸﾞﾙｰﾌﾟ	テクニカルセンター
堀　貴彦	田中　歩	前司　裕斗	近野　信彦	丹　ひろみ

一般従業員

3. 対象範囲

日本ﾌｲﾙﾀｰ株式会社 米沢事業所(ﾃｸﾆｶﾙｾﾝﾀｰ含む)の全組織を対象とする。
本環境経営ﾚﾎﾟｰﾄは、日本ﾌｲﾙﾀｰ株式会社 米沢事業所　の活動内容となる。

米沢事業所　／山形県米沢市　：認証番号No.0001461
（2007年3月30日）



なお本社・各営業所については、2017年(第62期)に認証取得を行った。

本社　　／神奈川県横浜市
仙台営業所　／宮城県仙台市
名古屋営業所／愛知県名古屋市
大阪営業所　／大阪府茨木市
熊本営業所　／熊本県熊本市

：認証番号No.0011864
（2017年6月13日）

環境経営方針

企業理念

私たち日本フイルター株式会社　米沢事業所は、水処理技術と精密ろ過技術を通して、かけがえのない地球の水環境を護る製品を世の中に送り出すと同時に、自らの製品の製造においても、地球を護る配慮を継続して行います。

環境方針

当社の企業理念に基づき、排水リサイクル装置、精密ろ過装置、純水製造装置及びその周辺機器の開発、製造及び販売に係わる事業活動を通じ環境保全に取組みます。

また、その取組みを継続的なものにするために、企業そのものの存続を確実にするための経済的な利益創出との両立に全力を挙げて取組みます。

1. 環境活動プログラム「エコアクション21」を運用し、米沢事業所全員が参加して環境活動の継続的な維持、改善を推進します。

2. 事業所の活動を通じ、環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で目標を定め、環境保全活動の継続的な改善に努めます。

3. 環境に関する法規及びその他の要求事項を遵守し、地域社会との調和に努めます。

4. 事業所の生産活動における環境負荷の削減及び改善をはかるために、次の事項について重点的に取組みます。

   1)二酸化炭素排出量の削減
   2)廃棄物の発生抑制と分別収集の徹底
   3)水資源の保護
   4)地域社会との共生

5. 社員への環境方針の周知と環境意識の向上をはかり、環境方針及び環境活動報告は開示します。

2019年10月1日
日本フイルター株式会社
米沢事業所所長

宮下　貴司

５．環境経営目標

No	環境経営目標	目標値	重点部門
1	二酸化炭素排出量の削減	現状維持(前期原単位比)	ろ過機製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ
2	ﾘｻｲｸﾙ率の向上	ﾘｻｲｸﾙ率85%	全部門
3	廃棄物排出量削減	現状維持(前期原単位比)	全部門
4	水使用量の削減	現状維持(前期原単位比)	膜製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ
5	地域社会との共生 環境美化活動	全員参加(年間1回/人以上)	全部門
6	化学物質適正管理	化学物質の適正維持管理	ﾃｸﾆｶﾙｾﾝﾀｰ
7	製品･ｻｰﾋﾞｽに関する 環境配慮	顧客要求への期限厳守	全部門

6. 環境経営計画及び取組み結果と評価

1)環境経営計画及び取組み結果と評価

(1)ろ過機製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ
(2)梱包･出荷ｸﾞﾙｰﾌﾟ
(3)ﾕﾆｯﾄ製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ
(4)膜製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ
(5)ﾃｸﾆｶﾙｾﾝﾀｰ

2)取組み内容

取組み内容の方針

(1)各ｸﾞﾙｰﾌﾟのこれまでの実績を振り返り、現状の維持活動を基本とし、目標は、実績より統計的手法を用いて分析を行い数値化し取り組みを進めていく。

(2)活動実施項目としては
①固定的(生産量や作業量に比例しない)に消費するｴﾈﾙｷﾞｰへの対応
②CO_2排出量の少ないｴﾈﾙｷﾞｰへの移行(化石燃料から電気へ)
③ｴﾈﾙｷﾞｰ原単位を意識した生産展開(段取時間短縮、歩留まり向上等)を念頭に計画的な活動を行う。

(3)化学物質の適正管理。

(4)環境に関する情報収集や各種ｾﾐﾅｰ等への参加。

(5)環境経営活動の意識向上。

1）環境経営計画及び取組み結果と評価

（１）ろ過機製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ

第65期　部門別環境活動計画書 兼 評価実施記録表

Rev.00

ｸﾞﾙｰﾌﾟ名：ろ過機製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ

承認	確認	作成
宮下	時田	堀
2020.10.31	2020.10.31	2020.10.31

計画：○(点線)
実績：●(実線)

目標	目的達成手段 具体策・評価指標	実行責任者		計画 10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
■電力の削減(成形機、周辺機器)	①A型、C型成形の生産計画を立て年間生産回数を抑える	鈴木、古藤		●	●	●	●		●	●	●	●	目標是正→		
過去3期平均使用量(62～64期)　209,463 kW/年	②デマンド値の抑制 ・成形機電源投入時間管理 650t、1050tの電源投入時間を他の成形機とずらす														
生産実績100万円当りの電力使用量　17,676 kW/年	③その他 ・A棟、C棟のエアー配管リークチェックを年1回実施する ・A棟、C棟のエアハン清掃を年1回実施する （1年ごとA棟はASと、C棟はYPと交代で実施） ※65期担当　A棟-組立G　C棟-成形G	MS全員				●								
65期目標		基準年	単月	1,473	1,473	1,473	1,473	1,473	1,473	1,473	1,473	1,473	1,473	1,473	1,473
			累計	1,473	2,946	4,419	5,892	7,365	8,838	10,311	11,784	13,257	14,730	16,203	17,676
年間電力使用量　207,368 kW/年		目標	単月	1,458	1,458	1,458	1,458	1,458	1,458	1,458	1,458	1,458	1,519	1,519	1,519
生産実績100万円当りの電力使用量　17,494 kW/年			累計	1,458	2,916	4,374	5,832	7,290	8,748	10,206	11,664	13,122	14,641	16,159	17,678
		実績	単月	1,594	1,475	1,345	1,663	1,687	2,362	1,456	1,814	1,382	1,227	1,344	812
基準年度比　99 %			累計	1,594	3,070	4,414	6,077	7,764	10,126	11,582	13,396	14,778	16,005	17,349	18,161
削減率　1 %		評価		×	×	○	×	×	×	○	×	○	○	○	○
■電力の削減（乾燥炉電力量）	①生産計画の効率化 ・A型を溶着する前に、成形品の乾燥時間を最短にする為、成形生産予定と溶着生産データを調整し、効率のよい生産計画をたてる。 （在庫期間が長いと乾燥時間が多く必要）	MW堀		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
64期使用電力量　10,065 kW/年															
生産実績100万円当りの電力使用量　572.2 kW/年															
47.7 kW/月		基準年	単月	47.7	47.7	47.7	47.7	47.7	47.7	47.7	47.7	47.7	47.7	47.7	47.7
			累計	48	95	143	191	239	286	334	382	429	477	525	572
65期目標		目標	単月	47.2	47.2	47.2	47.2	47.2	47.2	47.2	47.2	47.2	47.2	47.2	47.2
生産実績100万円当りの電力使用量　566.5 kW/年			累計	47	94	142	189	236	283	330	378	425	472	519	566
47.2 kW/月		実績	単月	31.6	33.6	29.2	0.0	38.0	14.2	74.6	28.2	68.4	67.2	140.3	41.0
基準年度比　99 %			累計	31.6	65.2	94.4	94.4	132.4	146.6	221.2	249.4	317.8	385.0	525.3	566.3
削減率　1 %		評価		◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	○	×	○
■水使用量維持管理	①排水のろ過とﾘｻｲｸﾙ ・当月ﾃｽﾄ機種によるﾘｻｲｸﾙ量の算出(㎥) ・定期的なろ過機清掃（基本四半期毎）	AS小杉		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
			清掃計画			○			○			○			○
			清掃実績			●			●			●			●
64期効果金額　¥17,409		基準年	ﾘｻｲｸﾙ量	4.30	5.00	3.60	7.80	3.70	2.50	3.56	2.62	4.15	7.20	3.13	5.00
			単価（1㎥）	335.22	328.37	326.43	326.43	326.43	326.43	317.75	344.75	329.75	333.96	344.75	338.88
			効果金額	1,441.46	1,641.83	1,175.16	2,546.18	1,207.81	816.08	1,131.18	903.25	1,368.47	2,404.49	1,079.07	1,694.41
65期効果金額(実績)　¥16,481		実績	ﾘｻｲｸﾙ量	3.18	3.95	3.55	5.12	3.65	5.70	2.70	3.30	5.53	3.00	3.50	11.00
	ﾘｻｲｸﾙ量はﾊｳｼﾞﾝｸﾞの体積から算出する。		単価（1㎥）	349.13	318.18	360.56	360.56	360.56	360.56	279.24	320.91	258.92	253.19	249.47	249.00
			効果金額	1,110.23	1,256.80	1,280.00	1,846.09	1,316.06	2,055.22	753.96	1,058.99	1,431.82	759.56	873.14	2,739.00
		評価		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
■廃ﾌﾟﾗ排出量の削減	①樹脂替え作業 1050t、650tのA型、C型成形を計画的に行い、年間成形回数を抑える	鈴木、古藤													
目標：過去3期平均生産実績100万円当たりの廃ﾌﾟﾗ排出量-5%															
過去2期平均廃棄量　3,417.00 kg/年	1050t A型成形	鈴木				●				●	●	●			
生産実績100万円当りの廃ﾌﾟﾗ排出量　283.20 kg/年	1050t C型成形	鈴木			●	●			●						
	650t A型成形	古藤				●	●					●			
65期目標値	650t C型成形	古藤		●	●		●		●						
生産実績100万円当りの廃ﾌﾟﾗ排出量　269.04 kg/年	②各成形機ごとに基本的な樹脂替え方法をまとめる	基準年	単月	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6	23.6
			累計	23.6	47.2	70.8	94.4	118.0	141.6	165.2	188.8	212.4	236.0	259.6	283.2
基準年度比　95 %		目標	単月	22.4	22.4	22.4	22.4	22.4	22.4	22.4	22.4	22.4	22.4	22.4	22.4
削減率　5 %			累計	22.4	44.8	67.3	89.7	112.1	134.5	156.9	179.4	201.8	224.2	246.6	269.0
※対象の廃ﾌﾟﾗ項目は「MSﾊﾞｰｼﾞ材」とする		実績	単月	29.5	19.9	30.5	22.9	13.8	29.4	17.4	24.7	19.3	24.5	20.3	3.8
			累計	29.5	49.5	79.9	102.8	116.6	146.1	163.5	188.1	207.5	231.9	252.2	256.0
		評価		×	○	×	×	○	×	○	×	○	×	○	◎
■PVC回収業者市場調査	①目標と管理指標説明	戸田		●											
	②PVCﾌﾞﾛｯｸ重量集計			●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○
64期PVCﾌﾞﾛｯｸ廃棄量調査	③効率の良い材料取りの検討				●		●		○		○		○		
65期PVCﾌﾞﾛｯｸ重量571.7kg	④PVC回収業者市場調査					○		○		○		○		○	
	⑤市場調査報告書まとめ												-在庫置き場の兼ね合いで廃棄-		
		基準年	単月												
			累計												
		目標	単月												
			累計												
		実績	単月	168.7	103	70	88	100	32	81	79	162	0	0	0
			累計	168.7	272	342	430	530	562	643	722	884	0	0	0
		評価		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

月次評価基準
単月、累計ともに達成している---◎
単月、累計どちらかが達成している---○
単月、累計ともに未達成---×

是正処置の基準
3ヶ月連続で×が続いた場合は、様式「問題の是正処置」に従い処置をする。

（２）梱包･出荷ｸﾞﾙｰﾌﾟ

第65期　部門別環境活動計画書 兼 評価実施記録表

Rev.01

ｸﾞﾙｰﾌﾟ名：LGｸﾞﾙｰﾌﾟ

承認	確認	作成
宮下	時田	佐藤(沙)
2020.10.31	2020.10.31	2020.10.31

計画：○(点線)
実績：●(実線)

page 1/1

目標	目的達成手段 具体策･評価指標	実行責任者		計画 10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
■裏紙の有効活用	①目標と管理指標説明 注文書、出荷伝票変更等の印刷済用紙を裏紙として再利用	今野		●											
基準年度実績 2019年度(64期)	②裏紙使用枚数記録			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
裏紙使用枚数 3,976枚/年	③OAペーパー→裏紙使用への検討、実施			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
331.3枚/月	④OAペーパー使用枚数記録			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
目標値 2020年度（65期）	現状→機密書類、裏紙使用可、裏紙使用不可に分類	基準年	単月	331	331	331	331	331	331	331	331	331	331	331	331
増量率 2%	課題、対策→裏紙使用可を再利用し裏紙使用率を上げる		累計	331	662	993	1,324	1,655	1,986	2,317	2,648	2,979	3,310	3,641	3,972
4,056枚/年	活動→裏紙再利用の促進、有効活用（OAペーパーの削減）	目標	単月	338	338	338	338	338	338	338	338	338	338	338	338
338枚/月			累計	338	676	1,014	1,352	1,690	2,028	2,366	2,704	3,042	3,380	3,718	4,056
		実績	単月	617	192	213	336	288	289	362	234	339	341	314	304
			累計	617	809	1,022	1,358	1,646	1,935	2,297	2,531	2,870	3,211	3,525	3,829
※64期OAペーパー使用枚数 6,071枚		評価		◎	○	○	○	×	×	○	×	○	○	×	×
		効果金額（円）		308.5	96.0	106.5	168.0	144.0	144.5	181.0	117.0	169.5	170.5	157.0	152.0
■ビニール系緩衝材の再利用	①目標と管理指標説明 ②ビニール系緩衝材の再利用	近野		●											
基準年度実績 2019年度(64期)				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ビニール系再利用の緩衝材 114.1kg/年															
9.5kg/月	現状→産廃物として捨てている														
	課題、対策→緩衝剤として使用可能な物を回収する	基準年	単月	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5
目標値 2020年度（65期）	活動→回収した緩衝材を有効活用し再利用する		累計	9.5	19.0	28.5	38.0	47.5	57.0	66.5	76.0	85.5	95.0	104.5	114.0
増量率 5%		目標	単月	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
119.8kg/年	※他部署からの回収分を把握する		累計	10.0	20.0	30.0	40.0	50.0	60.0	70.0	80.0	90.0	100.0	110.0	120.0
10.0kg/月		実績	単月	20.1	7.9	12.3	16.7	8.5	9.8	10.8	11.9	8.1	7.4	6.6	6.5
			累計	20.1	28.0	40.3	57.0	65.5	75.3	86.1	98.0	106.1	113.5	120.1	126.6
		評価		◎	○	◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	○	○
		効果金額（円）		23,869	9,381	14,606	19,831	10,094	11,638	12,825	14,131	9,619	8,788	7,838	7,719
■紙系緩衝材の再利用	①目標と管理指標説明 ②紙系緩衝材の再利用	蓬田		●											
基準年度実績 2019年度(64期)				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
紙系再利用の緩衝材 125.7kg/年															
10.5kg/月	現状→リサイクル品として業者で買取														
	課題、対策→緩衝材として使用可能な物を回収する	基準年	単月	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5
目標値 2020年度（65期）	活動→回収した緩衝材を有効活用し再利用する		累計	10.50	21.00	31.50	42.00	52.50	63.00	73.50	84.00	94.50	105.00	115.50	126.00
増量率 5%		目標	単月	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0
132.0kg/年	※他部署からの回収分を把握する		累計	11.0	22.0	33.0	44.0	55.0	66.0	77.0	88.0	99.0	110.0	121.0	132.0
11.0kg/月		実績	単月	16.4	9.1	12.3	7.7	17.6	6.6	9.7	12.8	10.6	6.1	9.6	8.8
			累計	16.4	25.5	37.8	45.5	63.1	69.7	79.4	92.2	102.8	108.9	118.5	127.3
		評価		◎	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	×	×	×
		効果金額（円）		5,848	3,245	4,386	2,745	6,276	2,354	3,459	4,565	3,780	2,175	3,423	3,138
■シール台紙を緩衝材へ再利用	①目標と管理指標説明 ②シール台紙を緩衝材として製作し再利用（本社、営業所用） シュレッターで粉砕しビニール袋に詰めて使用	近野		●											
基準年度実績 2019年度(64期)				○	●	●	○	○	●	●	●	○	●	●	●
シール台紙再利用の緩衝材 15.7kg/年															
1.3kg/月	現状→一般廃棄物として捨てている														
	課題、対策→緩衝材として再利用の為回収する	基準年	単月	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
目標値 2020年度（65期）	活動→回収した緩衝材を有効活用し再利用する		累計	1.3	2.6	3.9	5.2	6.5	7.8	9.1	10.4	11.7	13.0	14.3	15.6
増量率 0%		目標	単月	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
15.7kg/年			累計	1.3	2.6	3.9	5.2	6.5	7.8	9.1	10.4	11.7	13.0	14.3	15.6
1.3kg/月		実績	単月	0.0	2.1	2.7	0.0	0.0	3.4	3.2	2.7	0.0	2.4	0.0	3.8
			累計	0.0	2.1	4.8	4.8	4.8	8.2	11.4	14.1	14.1	16.5	16.5	20.3
		評価		×	○	◎	×	×	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
		効果金額（円）		0.0	37.8	48.6	0.0	0.0	61.2	57.6	48.6	0.0	43.2	0.0	68.4

月次評価基準
単月、累計ともに達成している---◎
単月、累計どちらかが達成している---○
単月、累計ともに未達成---×

是正処置の基準
3ヶ月連続で×が続いた場合は、様式「問題の是正処置」に従い処置をする。

（３）ユニット製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ

第65期　部門別環境活動計画書 兼 評価実施記録表

Rev.01

ｸﾞﾙｰﾌﾟ名：ﾕﾆｯﾄ製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ

承認	確認	作成
宮下	時田	田中
2020.10.31	2020.10.31	2020.10.31

計画：○(点線)
実績：●(実績)

page 1/2

目標	目的達成手段 具体策・評価指標	実行責任者		計画 10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
■水使用量の維持・管理 基準年度実績 各装置毎のﾃｽﾄ水の使用量の実績　100 %	①目標と管理指標説明 ②各装置毎にﾃｽﾄ水使用量の100%を維持目標とし水使用量がｵｰﾊﾞｰしない様に、維持・管理する。 ③各装置毎のﾃｽﾄ水量(2016.10～2019.9)の平均値を元に第65期の基準値とし、ﾃｽﾄ水量(L)の維持・管理を行う。 ④ﾃｽﾄ水槽の入替・清掃を定期的に行い、水をきれいに保つ。	田中		ﾃｽﾄ槽清掃 ● ﾃｽﾄ槽入れ替え ● 実施日 12月27日			ﾃｽﾄ槽清掃 ● ﾃｽﾄ槽入れ替え ● 実施日 3月31日			ﾃｽﾄ槽清掃 ● ﾃｽﾄ槽入れ替え ● 実施日 6月30日			ﾃｽﾄ槽清掃 ● ﾃｽﾄ槽入れ替え ● 実施日 9月30日		
2020年度目標 基準年度比　100 % 削減率　0 %		基準年	単月	77.6	7.5	910.5	2,186.5	959.2	369.6	1.5	687.5	11.6	687.5	0.0	1,191.4
			累計	77.6	85.1	995.6	3,182.1	4,141.3	4,510.9	4,512.4	5,199.9	5,211.5	5,899.0	5,899.0	7,090.4
		目標	単月	77.6	7.5	910.5	2,186.5	959.2	369.6	1.5	687.5	11.6	687.5	0.0	1,191.4
			累計	77.6	85.1	995.6	3,182.1	4,141.3	4,510.9	4,512.4	5,199.9	5,211.5	5,899.0	5,899.0	7,090.4
		実績	単月	0.0	1.4	792.8	2,229.9	848.7	234.8	0.9	638.5	0.7	492.7	0.0	1,924.7
	評価指標：月毎の水使用量		累計	0.0	1.4	794.2	3,024.1	3,872.8	4,107.6	4,108.5	4,747.0	4,747.7	5,240.4	5,240.4	7,165.1
		使用料金	単月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			累計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ﾃｽﾄ水槽の入れ替え頻度3ヶ月/1回	達成率	単月	-	536%	115%	98%	113%	157%	167%	108%	1657%	140%	-	61.9%
			累計	-	6079%	125%	105%	107%	110%	110%	110%	110%	113%	113%	99%
		評価		–	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×
■産業廃棄物(電線)の維持・管理 基準年度実績 各装置毎のｹｰﾌﾞﾙ廃棄量の実績　100 %	①目標と管理指標説明 ②各装置毎にｹｰﾌﾞﾙ廃棄量平均の廃棄率100%を維持目標とし維持・管理する。 ③各装置毎の電線廃棄量(2016.10～2019.9)の平均値を元に第65期の基準値とし、電線廃棄量(kg)の維持・管理を行う。 ④大型装置の使用ｹｰﾌﾞﾙ切断寸法をﾘｽﾄ化・表記を行いｹｰﾌﾞﾙ長さにﾊﾞﾗﾂｷを無くす様に維持・管理を継続して行う。 ⑤各ｻｲｽﾞの電線廃棄の最低ﾗｲﾝを決めﾘｽﾄ化済み。電線切断時、残りのﾒｰﾄﾙ数が明らかに他ﾕﾆｯﾄで使用できない場合は、(その他電線として)廃棄し、ﾕﾆｯﾄ組立分と同じにしない。(継続)	丸山		現状把握・対策 効果確認											
2020年度目標 基準年度比　100 % 削減率　0 %		基準年	単月	1.55	3.63	3.54	1.08	1.65	0.43	1.43	0.00	3.35	0.40	1.17	2.13
			累計	1.55	5.18	8.72	9.80	11.45	11.88	13.31	13.31	16.66	17.06	18.23	20.36
		目標	単月	1.55	3.63	3.54	1.08	1.65	0.43	1.43	0.00	3.35	0.40	1.17	2.13
			累計	1.55	5.18	8.72	9.80	11.45	11.88	13.31	13.31	16.66	17.06	18.23	20.36
		実績	単月	1.20	2.50	2.650	1.20	0.9	0.2	1.00	0.00	1.60	0.23	0.65	1.1
			累計	1.20	3.70	6.35	7.55	8.43	8.63	9.63	9.63	11.23	11.45	12.10	13.20
	評価指標：月毎の電線廃棄物重量	達成率	単月	129.2%	145.2%	133.6%	90.0%	188.6%	215.0%	143.0%	-	209.4%	177.8%	180.0%	193.6%
			累計	129.2%	140.0%	137.3%	129.8%	135.9%	137.7%	138.3%	138.3%	148.4%	149.0%	150.7%	154.2%
		評価		◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
■電力使用量(水銀灯)の維持・管理 基準年度実績 第62期～第64期電力(水銀灯)使用量の実績　100 %	①目標と管理指標説明 ②各月の電力使用量(水銀灯)(2016.10～2019.9)の平均値を元に第65期の基準値とし、電力使用量(水銀灯)の維持・管理を行う。 ③水銀灯使用した人が各自が、点灯・消灯時間を入力することにより、意識付けを行う。(継続) ④使用している水銀灯の範囲から長時間離れる場合・使用しない場合は、消灯する。(継続) ⑤電力使用量を維持・管理する為にも、極力居残り作業をしない。 ⑥目標値見直し 過去3期平均(同月比)から原単位(生産額100万円当たり)へ見直し。(2020年7月分より評価開始)	鈴木		現状把握・対策 効果確認											
2020年度目標 基準年度比　100 % 削減率　0 %		基準年	単月	287.7	360.5	523.8	304.7	520.9	391.9	465.7	414.6	540.5	394.7	454.9	568.1
			累計	287.7	648.3	1,172.0	1,476.7	1,997.7	2,389.6	2,855.3	3,269.9	3,810.4	4,205.1	4,660.0	5,228.1
		目標	単月	287.7	360.5	523.8	304.7	520.9	391.9	465.7	414.6	540.5	394.7	454.9	568.1
			累計	287.7	648.3	1,172.0	1,476.7	1,997.7	2,389.6	2,855.3	3,269.9	3,810.4	4,205.1	4,660.0	5,228.1
		実績	単月	464.8	845.6	670.0	383.8	397.6	108.9	251.2	48.3	250.1	183.8	49.6	261.8
			累計	464.8	1,310.4	1,980.4	2,364.2	2,761.8	2,870.7	3,121.9	3,170.2	3,420.3	3,604.1	3,653.7	3,915.5
		使用料金	単月	¥6,758	￥12,295	¥9,742	¥5,580	¥5,781	¥1,583	￥ 3,652	¥ 702	￥ 3,636	￥ 2,672	¥ 721	￥ 3,807
			累計	¥6,758	￥19,053	￥28,795	￥34,375	￥40,157	￥41,740	¥45,392	¥46,095	¥49,731	¥52,404	¥53,125	¥56,931
	評価指標：月毎の電力(水銀灯)使用量	達成率	単月	61.9%	42.6%	78.2%	79.4%	131.0%	359.9%	185.4%	858.4%	216.1%	214.7%	917.1%	217.0%
			累計	61.9%	49.5%	59.2%	62.5%	72.3%	83.2%	91.5%	103.1%	111.4%	116.7%	127.5%	133.5%
		評価		×	×	×	×	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎

月次評価基準
単月、累計ともに達成している---◎
単月、累計どちらかが達成している---○
単月、累計ともに未達成---×

是正処置の基準
3ヶ月連続で×が続いた場合は、様式「問題の是正処置」に従い処置をする。

（４）膜製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ

第65期　部門別環境活動計画書 兼 評価実施記録表

Rev.01

ｸﾞﾙｰﾌﾟ名：膜製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ

承認	確認	作成
宮下	時田	波多野
2020.10.31	2020.10.31	2020.10.31

計画：○(点線)
実績：●(実線)

目標	目的達成手段 具体策・評価指標	実行責任者		計画 10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
■LPガス使用量の削減、維持管理	①目標と管理指標説明	土田	①	●											
基準年度実績	②工程2チェックガス使用量削減		②	デジタル計	管理見直し		運用								
2019年度実績　3.40　㎥/月	③工程1の自動化による管理徹底		③	●	●										
2020年度目標				生産なし											
基準年度比　99　%	生産膜Ⅱ　使用量/1000本あたり →	64期実績	単月	-	3.13	-	-	-	-	-	-	25.18	2.21	1.83	1.79
削減率　1　%		65期実績	単月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.37　㎥/月		目標	64期実績	1.25	0.32	15.93	35.46	13.87	26.69	18.96	0.45	0.69	-	-	0.17
			単月	0.25	0.24	2.88	6.44	7.17	4.98	4.57	0.15	0.50	-	-	0.20
			累計平均	0.26	0.25	1.50	3.09	3.51	3.84	3.96	3.58	3.45	3.45	3.45	3.37
	ガス使用量→	実績	絶対値	0.00	13.74	29.67	41.00	22.11	40.15	38.13	1.81	0.70	0.09	0.06	0.00
目標値→64期実績　1%削減	工程2の1,000本当りのガス使用量→		単月	0.00	3.71	4.43	5.98	6.35	8.04	8.81	0.49	0.14	0.14	0.09	0.00
			累計平均	0.00	3.71	4.17	4.89	5.14	5.70	6.15	5.53	4.82	4.74	4.66	4.66
			評価	–	×	×	○	○	×	×	×	○	–	-	×
		効果金額(1000本あたり)		-	-	-	¥372	¥668	–	-	-	¥290	-	-	–
		効果金額(絶対値)		¥1,017	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	¥139
■産業廃棄物削減(廃ﾌﾟﾗ)	①目標と管理指標説明	波多野	①	●											
基準年度実績	②生産膜Ⅱパージ剤　見直し検討		②	TC分析		トライ		検証							
2019年度実績　13.9　(kg/千)			63期実績	–	-	-	-	-	-	16.4	-	-	-	-	-
	生産膜Ⅱ　(廃棄パージ剤/成形本数)*1000本		64期実績	-	16.4	-	-	-	-	-	-	24.5	16.4	13.7	16.5
2020年度目標			65期実績	-	-	-									
基準年度比　100　%	③樹脂回収継続　回収率実績入力　→	実績	64期	2.7	2.5	3.7	3.1	4.6	2.8	3.9	2.1	3.6	-	-	12.4
削減率　0　%	※1000本あたり		65期	0.0	3.5	2.7	2.5	2.8	-	-	-	-	-	-	-
13.90　(kg/千)	4月より目標値修正(是正)	目標	絶対値	67.50	13.20	53.30	62.90	55.90	52.00	87.70	65.90	12.60	0.00	1.00	12.10
			単月	14.10	9.90	9.80	10.10	29.50	9.90	13.10	13.10	13.10	13.10	13.10	13.10
			累計	14.10	13.20	11.60	11.10	12.90	12.20	11.60	12.30	12.20	12.20	12.20	12.20
		実績	絶対値	0.00	45.60	70.70	72.70	19.50	57.10	50.20	40.10	36.00	8.00	6.00	7.50
目標値→64期実績維持活動	成形樹脂廃棄量　廃棄樹脂/1000本あたり→		単月	0.00	14.10	12.90	10.60	11.80	13.30	11.60	10.80	7.70	12.10	8.80	-
			累計平均	0.00	14.10	13.40	12.30	12.20	12.40	11.00	11.00	10.60	10.60	10.60	10.60
	評価指標：月毎の廃ﾌﾟﾗ(最終処分)重量		評価	–	×	×	×	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	○
		効果金額(1000本あたり)		¥705	-	-	-	¥885	-	¥75	¥115	¥270	¥50	¥215	-
		効果金額(絶対値)		¥3,375	-	-	-	¥1,820	-	¥1,875	¥1,290	-	-	-	¥230
■電力の維持活動	①目標と管理指標説明	前司	①	●											
基準年度実績	②ｴｱｺﾝﾌｨﾙﾀｰ清掃　(3ヶ月に1回)		②			●			○			○			○
2015.6.7年度実績平均　11,918　kW	③温湿度管理		③		●										
	成形室、混合室→絶対湿度基準の順守														
2020年度目標															
基準年度比　100		64期実績	単月(絶対値)	1,519	519	12	30	20	12	104	1,254	1,989	2,296	2,325	1,957
削減率　0　%			累計	1,519	2,038	2,050	2,080	2,100	2,112	2,216	3,470	5,459	7,755	10,080	12,037
11,918　kW		目標	絶対値	1,760	205	33	69	86	4	70	1,190	1,840	2,321	2,338	2,002
	評価指標：定格消費電力からの計算値		単月	289	7	9	27	39	0	13	176	322	469	414	275
	(定格消費電力×ｴｱｺﾝ稼働時間)		累計	1,760	1,965	1,998	2,067	2,153	2,157	2,227	3,418	190	264	334	383
目標値→62.63.64期実績平均値	消費電力(屋外機12.1kW÷屋内機13台+各屋内機消費電力)	実績	絶対値	978	14	0	13	4	0	0	928	2,040	2,122	1,481	1,358
			単月	0	8	0	3	1	0	0	335	461	1,519	1,611	5,263
			累計平均	978	992	992	1,004	1,008	1,008	1,008	1,936	134	196	237	277
			評価	–	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○
		効果金額(原単位)		¥6,367	-	¥187	¥517	¥835	¥0	¥294	-	-	-	-	-
		効果金額(絶対値)		¥17,200	¥4,212	¥726	¥1,234	¥1,807	¥88	¥1,547	¥5,774	-	¥3,835	¥18,578	¥644
■水使用量の維持活動	①目標と管理指標説明	土田	①	●											
基準年度実績	②工程2水使用量削減		②												
2019年度実績　15.89　m^3/千本	③工程3水回収		③	水質調査									水質調査、判定	運用	
	冬季、夏季で水質調査を行う														
	④工程1の自動化による管理徹底		④	○	●										
	⑤生産膜Ⅰ、生産膜Ⅱ　使用量監視		⑤	○	●										
2020年度目標															
基準年度比　99　%															
削減率　1　%	生産膜Ⅱ　64期　使用量/1000本あたり→	64期実績	単月	0.00	18.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	20.20	16.92	17.52	15.57
15.73　m^3/千本		65期実績	単月	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	良品数1,000本当りの水使用量→	目標	絶対値	81.69	22.36	83.98	93.56	35.92	88.38	71.63	56.92	19.88	0.00	0.00	14.58
	(成形本数/ﾒｰﾀｰ1+工程2/ﾒｰﾀｰ2)		単月	16.58	16.39	15.15	14.74	16.94	16.18	17.02	14.78	13.83	-	-	16.02
			累計	16.58	16.54	15.91	15.51	15.64	15.77	15.93	15.80	15.73	15.73	15.73	15.73
目標値→64期実績の1%減		実績	絶対値	0.00	70.84	103.69	118.39	60.91	90.41	88.47	70.99	82.12	12.65	12.70	0.41
	評価指標：月毎の水使用量		単月	0.00	15.97	16.72	17.10	16.93	17.85	20.15	18.83	17.30	18.20	16.86	0.05
			累計平均	0.00	15.97	16.46	16.73	16.78	17.00	17.47	17.53	17.60	17.61	17.60	17.60
			評価	-	◎	×	×	○	×	×	×	×	-	-	○
		効果金額(1000本あたり)		-	¥139	-	-	¥2	-	-	-	-	-	-	-
		効果金額(絶対値)		¥26,997	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

月次評価基準
単月、累計ともに達成している---◎
単月、累計どちらかが達成している---○
単月、累計ともに未達成---×

是正処置の基準
3ヶ月連続で×が続いた場合は、様式「問題の是正処置」に従い処置をする。

（５）テクニカルセンター

第65期　部門別環境活動計画書 兼 評価実施記録表

Rev.01

ｸﾞﾙｰﾌﾟ名：ﾃｸﾆｶﾙｾﾝﾀｰ

承認	確認	作成
宮下	時田	丹
2020.10.31	2020.10.31	2020.10.31

計画：○(点線)
実績：●(実線)

目標	目的達成手段 具体策・評価指標	実行責任者		計画 10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
水道水使用量の削減の検討	①目標と管理指標説明	矢萩（丹）		←●→											
	②超純水製造装置からの排出水量の把握（矢萩）			←●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●→
	③透過流束の排出水量の把握（矢萩）			←●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●→
	→全量ASへ運搬し、利用される			←●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●→
	④② 排出水の再利用量の把握（矢萩）			←●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●→
	⑤再利用率の算出			←●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●→
純水透過流束試験および超純水製造装置から排出される排出水量を把握し、リサイクルに努める。前期まで実施してきたASグループでの再利用やチラーへの再利用に加え、64期はスクラバーやピペット洗浄、MFグループでの再利用（年4回？）など使用範囲を拡大する。	⑥水道料金の削減コストの算出		②排出水量[L]	3297	3394	4396	2761	1997	2448	2189	1736	2622	2370	989	1374
			③排出水量[L]	11	22	18	5	17	19	29	18	25	7	3	4
基準年度実績（64期調査結果）　18.7 %			④②再利用量[L]	722	1099	892	792	740	938	953	736	1108	1061	427	786
65期目標値　20 %			再利用量[L]	733	1121	910	797	757	957	982	754	1133	1068	430	790
基準年度比　16.9 %アップ			⑤再利用率[%]	22.2	32.8	20.6	28.8	37.6	38.8	44.3	43.0	42.8	44.9	43.4	57.3
			⑥削減コスト[円]	242.3	370.6	300.7	263.4	250.2	316.2	324.5	249.3	374.4	352.9	142.1	261.2
			評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
産業廃棄物の軽減	①目標と管理指標説明	浜津（小田桐）		←●→											
	②産業廃棄物として排出（ポリタンク15缶程度）（小田桐）			←●－	－－－	－－→								●	●
	③廃液の分別管理（浜津）			←●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●→
	④廃液の処理（担当が月ごとに廃棄）			←●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●→
				←●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●→
開発品関連の廃液は産業廃棄物として処分したのち新たに廃棄物の量を把握し、社内で処理できるものは社内処理を継続し、産業廃棄物の削減を目指す。		基準年	単月	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
			累計	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		目標	単月	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
			累計	15	30	45	60	75	90	105	120	135	150	165	180
廃液処理量(L)　15 L/月	廃液処理量(L)→	実績	単月	8.0	19.5	26.0	12.5	17.5	14.0	7.5	23.0	3.0	18.0	0.0	16.4
総量　L			累計	8.0	27.5	53.5	66.0	83.5	97.5	105.0	128.0	131.0	149.0	149.0	165.4
		評価		×	○	◎	○	◎	○	○	◎	×	○	×	○
排出スラッジ量の削減（排水処理室）	①目標と管理指標説明	諸田（和田）		←●→											
	②フローモニター等による排水量の把握（諸田）			←●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●→
	③スラッジ量の把握（諸田）			←●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●－	－●→
	④スラッジ排出金額の算出	基準年	単月	0.52	0.42	0.54	0.87	0.08	0.82	0.17	0.32	0.12	0.57	0.58	0.62
			累計	0.52	0.94	1.48	2.35	2.43	3.25	3.42	3.74	3.86	4.43	5.01	5.63
		目標	単月	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40
			累計	0.40	0.80	1.20	1.60	2.00	2.40	2.80	3.20	3.60	4.00	4.40	4.80
過去3年間の排出スラッジ量を数値化してきたが、排出量が頭打ちになってきている。また、自社廃液処理により処分委託する産業廃棄物量を減らそうと試みているため、今後スラッジ量が増えると予想される。従って、今期はこれまでの実績をもとに、目標値を据え置きにして維持活動を行う。		② 月毎排出量	スラッジ	12.83	9.73	26.12	15.97	16.13	10.01	8.87	3.64	31.94	22.75	9.66	6.35
基準年度実績（61期調査結果）　0.48 kg/m3/月		③	排水	41.39	55.10	51.45	38.01	35.28	43.98	43.60	38.30	36.98	27.63	18.53	24.35
64期実績値　0.36 kg/m3/月		④	スラッジコスト	346.41	262.71	705.24	431.19	435.51	270.27	239.49	98.28	862.38	614.25	260.82	171.45
65期目標値　0.40 kg/m3/月	排出スラッジ量(kg)／排水量(m3)→	実績	単月	0.31	0.18	0.51	0.42	0.46	0.23	0.20	0.10	0.86	0.82	0.52	0.26
基準年度比　83.3 %	排出スラッジ累計/排水量累計＝		累計	0.31	0.49	0.99	1.41	1.87	2.10	2.30	2.40	3.26	4.08	4.61	4.87
削減率　−11 %		評価		◎	◎	○	○	○	◎	◎	◎	○	×	×	○

月次評価基準
単月、累計ともに達成している---◎
単月、累計どちらかが達成している---○
単月、累計ともに未達成---×

是正処置の基準
3ヶ月連続で×が続いた場合は、様式「問題の是正処置」に従い処置をする。

7．環境経営目標の実績

1)環境経営目標と達成率･評価

No	環境経営目標	目標値	実績値	達成率	評価 A :達成率110%以上 B :達成率100%±10% C :達成率 90%未満
1	二酸化炭素排出量の削減(生産金額百万円当たりの排出量)	652 kg-CO_2/百万円	742 kg-CO_2/百万円	88%	C
2	リサイクル率の向上 (総ﾘｻｲｸﾙ重量 ／総廃棄物重量)	85%	63%	74%	C
3	廃棄物排出量削減 (生産金額百万円当たりの排出量)	45.4 kg/百万円	46.5 kg/百万円	99%	B
4	水使用量の削減 (生産金額百万円当たりの使用量)	3.2 m^3/百万円	3.1 m^3/百万円	114%	A
5	地域社会との共生 地元企業協議会の環境活動への参加など	全員参加 (43人)	42人参加 (延べ48人)	98%	A
6	化学物質適正管理	化学物質の適正維持管理	適正管理 (事故ゼロ)	達成	B
7	製品・ｻｰﾋﾞｽに関する環境配慮	顧客要求への対応	100%	100%	B

二酸化炭素排出量の計算には、購入電力の排出係数として東北電力㈱1ｷﾛﾜｯﾄ当たり、0.559kg-CO_2を使用(環境省HPより※2015年度)

７．環境経営目標の実績

2)達成率に対する内容

(１)二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出量が原単位で前期比6%UPとなった。（排出総量425,411kg-CO2）大きな要因として、電力量の増加（前期比+6%）が挙げられるが生産金額自体は減少傾向（前期比-8%）であることから、出荷に関わる生産に寄与しない製品開発などの試作生産が影響した。（前期比+62%）

(２)ﾘｻｲｸﾙ率の向上

前期比でリサイクル率が減少（-37%）となっており、PVC類の廃棄が大きな影響を及ぼしている。リサイクルの新規引き取り業者の選定は難航しており、社内でできる無駄のない材料取りや端材の有効利用について66期から活動展開を行っていく。

(３)廃棄物排出量削減

絶対量は前期よりも減少しているが、生産金額当たりでは増加している。PVCリサイクル用の在庫ストック分を廃棄したことが影響している。

(４)水使用量の削減

達成率は”A判定”だが、成形機のチラードレンバルブの締め忘れによって3日間流出したことで使用量が増加した。工場が動かない連休時に発生した為水道使用量のチェックが漏れてしまった為であり、早急に対策を実施した。

(5)地域社会との共生

例年通り、定期的に事業所内外のゴミ拾いや除草作業、工業団地の活動を実施したが、新型コロナウィルスの影響があり、年4回実施のうち1回を中止とした。その為、時間調整が合わず1名の不参加が発生した。

(6)化学物質適正管理

管理薬品による事故などの異常発生はなかった。

(7)製品・ｻｰﾋﾞｽに関する環境配慮

取引先からの環境及びｸﾞﾘｰﾝ調達調査等の期限厳守を目標とし、100%達成した。

8. 主な活動内容

※新規及び継続の取組み内容(設置は全て自社内にて実施)

◆成形樹脂へのリサイクル・再利用(ﾍﾟﾚｯﾄ化)

成形工程における、樹脂換えのﾊﾟｰｼﾞ及び部品ﾗﾝﾅｰ等を各樹脂毎、色毎に分別・回収する。細分化して分別したﾘｻｲｸﾙ材は業者によりﾍﾟﾚｯﾄ化(破砕品含む)し、再利用している。

・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類合計約12t/年の効果。

◆資源ｺﾞﾐの分別・回収

各職場において資源ｺﾞﾐの分別・回収を徹底し、細分化の徹底をする事により廃棄物削減となった。特にﾋﾞﾆｰﾙ類の回収においては種類、色、形の細分化によりﾘｻｲｸﾙを実施。

◆ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙ箱の再利用

使用済みﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙを社内間での出荷用として再利用。
※米沢－本社(横浜)間
一度使用してもダメージの少ないﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙ箱は主に社内間用として再利用する事でﾘｻｲｸﾙ率が向上している。

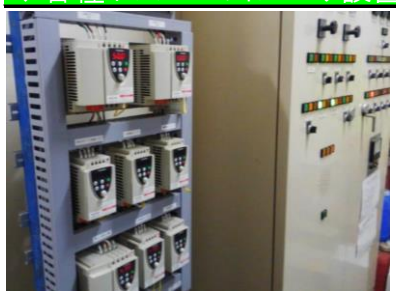
・週2回の社内間定期便に利用。(約90箱/年分)

◆テスト水のリサイクル化

自社製品の出荷ﾃｽﾄに使用した水は、そのまま排出せず、貯水槽に戻してﾘｻｲｸﾙする。(自動制御) なお、貯水槽内の水はろ過機で循環させ、水の清浄度を保持している。(ろ過機及びﾎﾟﾝﾌﾟは当社製品使用)

・投資金額は部材 約30,000円。
・ﾃｽﾄ水受槽と循環自動制御は自社内製作
・約100t/年の節水効果。

◆各種ﾎﾟﾝﾌﾟへのｲﾝﾊﾞｰﾀ設置



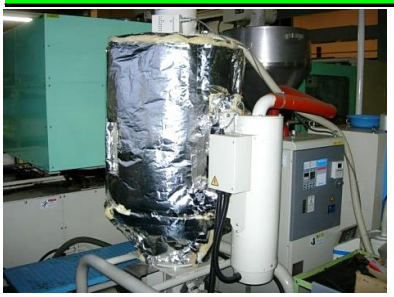
暖房ﾎﾞｲﾗｰ用温水循環ﾎﾟﾝﾌﾟ及び送風ﾎﾟﾝﾌ等へのｲﾝﾊﾞｰﾀ設置。周波数を調整・制御し、よりﾑﾀﾞの少ない効率的な運転及び最適な風量調整をすることで、大幅な節電効果につながっている。

<u>主なｲﾝﾊﾞｰﾀ設置例</u>

・ﾎﾞｲﾗｰ用温水循環ﾎﾟﾝﾌﾟ:13台　・ｸｰﾘﾝｸﾞﾀﾜｰ用循環ﾎﾟﾝﾌﾟ:2台
・ｴｱﾊﾝﾄﾞﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ用送風ﾎﾟﾝﾌﾟ:2台　・排気ﾗｲﾝﾌｧﾝ:1台
・電力量 約61,000kWh/年(33,000kg-CO2)の節電効果。

8. 主な活動内容

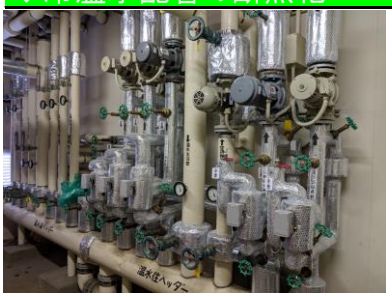
◆成形ﾄﾞﾗｲﾔｰﾎｯﾊﾟｰの断熱化及びﾀｲﾏｰ設置による省電力化



成形樹脂の乾燥(80℃設定)をするためのﾄﾞﾗｲﾔｰﾎｯﾊﾟｰ外周に断熱材を設置した。乾燥機表面からの放熱及び外気温からの影響を抑制し、電力使用量を削減する。特に温度差が大きい冬期間における樹脂乾燥温度の安定化も図られている。

・投資金額は断熱材 約12,000円。(4台分)
・部材購入により社内施工。
・20～30℃の保温・断熱効果

◆冷温水配管の断熱化



温水ﾎﾞｲﾗｰ用の循環冷温水配管の断熱化を行った。配管及び継手ﾊﾞﾙﾌﾞからの放熱を抑制し保温、特に温水の熱効率をUPさせた。

・3ヵ所のﾎﾞｲﾗｰ室で約120箇所設置。
・投資金額は断熱材 約40,000円。
・約1,000L/年の灯油節減効果。(試算)

◆手元照明(蛍光灯)の設置・使用

各職場の必要なｴﾘｱに蛍光灯(32W)を設置し、既設水銀灯(750W等)の使用を控えた。明るさは照度の確認済みで夏場は問題ないが、冬場においては必要に応じて水銀灯との併用で安全作業を心掛ける。

・各ｴﾘｱに手元照明(ｽｲｯﾁ含む)を20ヵ所設置。
・投資金額はｽｲｯﾁ代 約3,000円。
※蛍光灯は間引き(取外し)品、架台部材は社内部材利用

◆工場内　壁面の白壁化

工場内の壁の色が以前はｸﾞﾚｰ色(灰色)であったため、壁を白色に塗装した。ﾄﾝﾈﾙ内の視認性UPの手法を取り入れ、日中は日光、夜間は照明の反射による明るさUPの効果をもたらしている。また成形機を明るい色にする事によってさらなる効果UPとなっている。

・工場内の壁面は延べ約200㎡を塗装。
・投資金額は塗料代 約20,000円。

◆使用済みﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙを利用した緩衝材の製造・利用　(変更)

使用済みﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙを利用した緩衝材の製造及び利用をする。通常、使用済みﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙはﾘｻｲｸﾙ処分しているが、使用済みﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙを、すぐに処分せず梱包用の緩衝材として再利用することで、ﾘｻｲｸﾙ率が向上している。

※環境経営の観点から、費用対効果を再試算し直した結果現在使用しているｴｱｰｸｯｼｮﾝ式を採用し、ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙによる緩衝材の製造・利用は廃止とした。(2019年1月～)

8. 主な活動内容

◆空調用ﾁﾗｰの冷水設定温度調整と日よけｶﾊﾞｰ設置

夏季において、事務所では空調用ﾁﾗｰでの冷房を行っている。ﾁﾗｰ設定温度を調整し+3℃UPする事（8℃→11℃）、また外気温の影響で温度上昇を減らす為に日よけｶﾊﾞｰの設置により、効率改善をしている。

◆排水ﾋﾟｯﾄを利用したﾃｽﾄ水のﾘｻｲｸﾙ

ﾃｽﾄ水のﾘｻｲｸﾙ化と同様となるが、ﾕﾆｯﾄ製造工程において、ﾃｽﾄに使用した水は排水ﾋﾟｯﾄから排出せず、排水ﾋﾟｯﾄから吸水しろ過機で循環させ、貯水槽に戻しﾘｻｲｸﾙする。（自動制御） ろ過機及びﾎﾟﾝﾌﾟは当社製品を使用し、水使用量の削減を行っている。

◆ﾋﾞﾆｰﾙｶｰﾃﾝによる暖房効率の改善（冬期間）

作業ｴﾘｱと通路及び倉庫間等にﾋﾞﾆｰﾙｶｰﾃﾝを設置し、各作業ｴﾘｱ内の暖房効率を改善した。また、窓ｶﾞﾗｽへの断熱ｼｰﾄ施工も行い、冬期間で約2～3℃の保温効果となった。
（冬期間のみ）

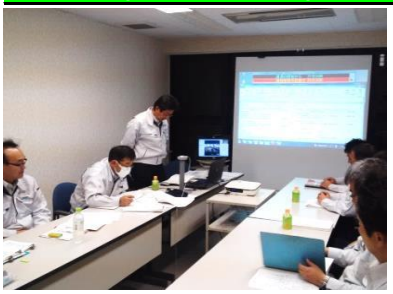
ﾋﾞﾆｰﾙｶｰﾃﾝと断熱ｼｰﾄは部材購入により社内施工。
投資金額は部材 約40,000円。

◆ｱﾙﾐﾀﾞｸﾄによる暖房送風効率の改善（冬期間）

温風吹き出し口が高い場所にある為、ｱﾙﾐﾀﾞｸﾄ等によって、天井付近から作業ｴﾘｱの高さへ、より近くに暖房送風を送る事により、体感温度がUPし、暖房効果をUPさせた。

・送風口が高いｴﾘｱ6ヵ所に設置。
・投資金額は部材 ｱﾙﾐﾀﾞｸﾄ代　約25,000円。

◆TV会議及びweb会議システムの導入・活用



米沢事業所と本社（横浜市）・各営業所との会議・講習等の際にTV会議及びweb会議システムにより、効率化と共に移動によるCO_2削減及び移動経費削減となった。

・年間約120回開催。（米沢－本社）
・経営会議12回、定例会議100回、社内講習会6回、他。

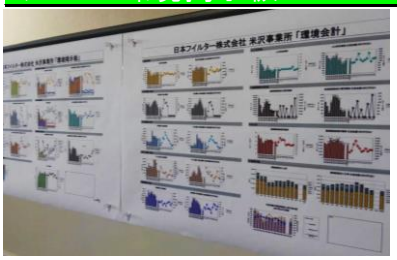
コロナ禍の対応として、外部業者との打ち合わせ訪問を自粛し、新しくﾘﾓｰﾄ会議を導入することで対応した。

8. 主な活動内容

◆照明の間引き点灯

事務所などでは人員と事務机のレイアウトが一致する場所について、照明器具を取り外し間引き点灯を行い、ムダを排除している。
※場所により蛍光灯のみ間引き

◆EA21環境掲示板



年間の各資源投入量と排出量、及び会計上の実績を月別原単位などを掲示し、周知徹底を行った。

◆ビニール類の収集分別リサイクル

廃棄物の中でも、通常行っている紙類や段ボールなどの分別以外のビニール類について回収業者の開拓と分別、排出までの流れを整備、リサイクル化を継続。

◆廃棄物管理システム

各部署からの廃棄物重量がﾊﾟｿｺﾝへの手入力であったため、各廃棄物別にバーコード化し、端末（バーコードリーダー付き）利用によりデータ送信し、リアルタイムに重量把握することが可能になった。
端末は通常作業の中で部品入出庫の際に使用しているため容易に操作できるﾒﾘｯﾄがある。

◆暖房ボイラーの稼働時間管理（冬期間）

暖房ﾎﾞｲﾗｰが各工場に3台、それぞれ稼働時間の管理を行い、より効率的･経済的に職場環境を整える。
昼時間などにﾎﾞｲﾗｰを停止し、その間は余熱での温水循環により対応し、灯油削減を行う。（断続運転での予熱利用など）

8. 主な活動内容

◆フロン排出抑制法に基づく点検　（新規）

H27より施行されたフロン排出抑制法に基づき、対象機器の定期点検（3年毎）を実施した。

社内で実施可能な簡易点検については、各部署で点検を実施し、点検結果を保管。

◆電力量補助金サービス

山形県と東北電力の電力料金補助サービスの申請、適用を受け、”電力量単価の4%割引”を”4年間”適用されている。（補助期間：2018年4月～2022年3月）

・推定効果金額約130万円/4年。

◆廃棄物置き場の清掃　（新規）

変更前　　変更後

廃棄物置き場のレイアウトとして、頻度の高いものが奥に配置されており、また通路上に廃棄場所があり不便だった為、頻度などを考慮したレイアウトへ変更し、無駄な移動距離を排除。

・レイアウト変更実施：2019/2

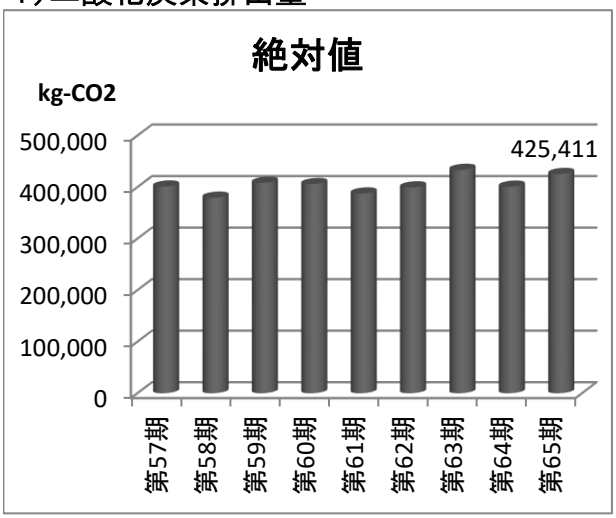
◆リサイクル業者の新規開拓　（新規）

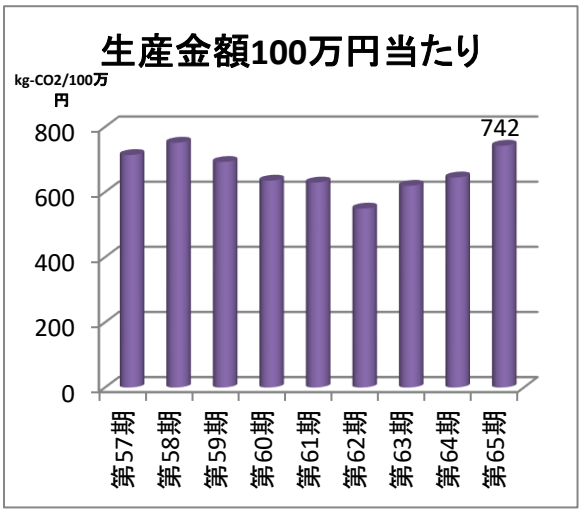
引き取りができなかったプラスチックについて、リサイクル業者の新規開拓を行い取引を開始した。
取引開始に伴い、有価引き取りが従来よりも高値で取引可能であった。

・新規開拓業者と取引開始：2019/6～

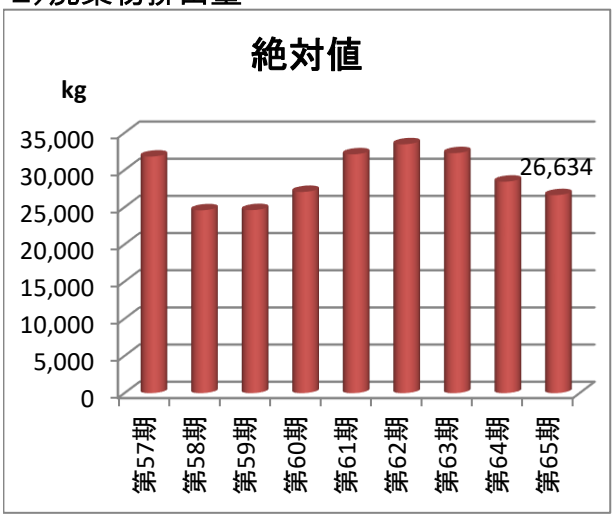
9. 主な環境負荷の推移

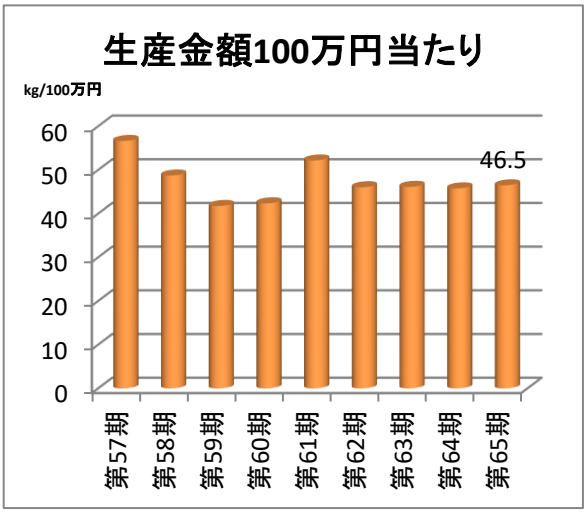
1）二酸化炭素排出量



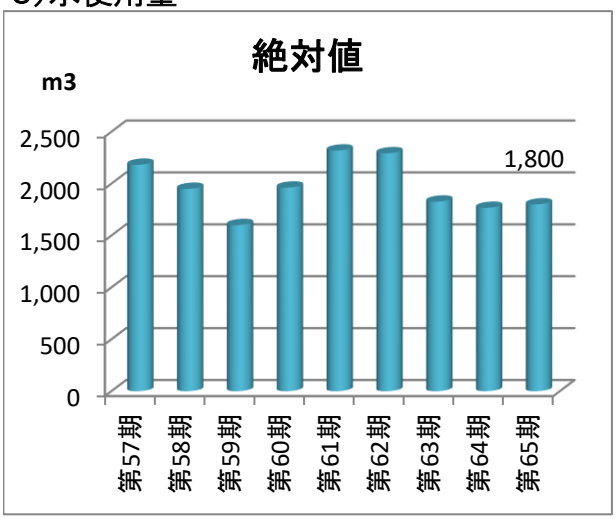


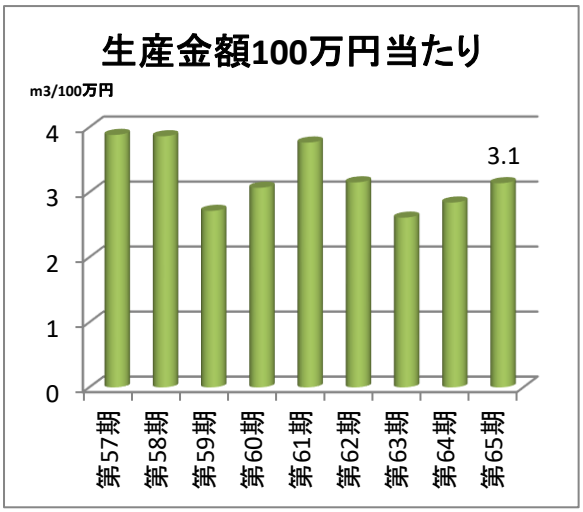
2）廃棄物排出量





3）水使用量





１０．次年度の環境経営目標及び環境経営計画

1)次年度の環境経営目標

No	環境経営目標	目標値 （単年度）	重点部門
1	二酸化炭素排出量の削減(生産金額百万円当たりの排出量)	734 kg-CO_2/百万円	ろ過機製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ
2	リサイクル率の向上(総ﾘｻｲｸﾙ重量／総廃棄物重量)	85%	全部門
3	廃棄物排出量削減(生産金額百万円当たりの排出量)	46.5 kg/百万円	全部門
4	水使用量の削減(生産金額百万円当たりの使用量)	3.1 m^3/百万円	膜製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ
5	地域社会との共生 地元企業協議会の環境活動への参加など	全員参加 （42人）	全部門
6	化学物質適正管理	化学物質の 適正維持管理	ﾃｸﾆｶﾙｾﾝﾀｰ
7	製品・ｻｰﾋﾞｽに関する環境配慮	顧客要求への対応	全部門

2)次年度の環境経営計画

取組み内容の方針

（1）各ｸﾞﾙｰﾌﾟのこれまでの実績を振り返り、現状の維持活動を基本とし、目標は、実績より統計的手法を用いて分析を行い数値化し取り組みを進めていく。

（2）活動実施項目としては

①固定的(生産量や作業量に比例しない)に消費するｴﾈﾙｷﾞｰへの対応

②CO_2排出量の少ないｴﾈﾙｷﾞｰへの移行(化石燃料から電気へ)

③ｴﾈﾙｷﾞｰ原単位を意識した生産展開(ﾘｰﾄﾞﾀｲﾑ短縮、歩留まり向上等)を念頭に計画的な活動を行う。

（3）化学物質の適正管理。

（4）環境に関する情報収集や各種ｾﾐﾅｰ等への参加。

（5）環境経営活動の意識向上。

１１．環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況は定期に確認しており、その評価結果は下記の通り。

法規制等ﾘｽﾄ兼遵守評価記録
指定可燃物重量の集計
配布：管理責任者

Rev.07
LRE-001

承認	作成
宮下	時田
2020.9.30	2020.9.30

報告の頻度:2回/年(4月と10月)に代表者に報告
遵守状況評価実施日:　R2年 9月 30日

法規制等の名称	該当する要求事項	該当条文	関連条文による規制	該当する設備・項目	点検・測定頻度、時期	届出・報告先	管理責任者	遵守の評価 証拠	遵守の評価 判定	備考 届出日等
水質汚濁防止法	・特定施設の届出	第二章 第五条 http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S45/S45HO138.html	事業場から公共用水域に水を排出するもの	洗浄施設(TC) ※実験室	新設・変更時	山形県知事	TC 和田	届出書	○ 変更無	H20.3.4
	・自主管理要領の策定	（山形県特定事業場排水自主管理要綱） 第十三条 http://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/050014/jisyukanri/kaiseijisyukanriyoukou.pdf	自主管理の推進 (特定施設及び汚水処理施設管理点検票)		要領書内の頻度	---		要領書の運用状況	○ 記録を確認	※排水処理 1か月毎点検 ※処理配管 3か月毎点検
下水道法	・特定施設の届出 ※除害施設	第二章 第一節 第十二条の三 http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S33/S33HO079.html	---	排水処理設備(TC) 排水処理設備(U)※ ※UはpHのみ管理	新設・変更時	米沢市下水道局		届出書	新設・変更無	H22.2.5 変更届
	・排水基準の遵守 水質測定及び記録 (5年間保管)	（施行令） 第十二条 http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S34/S34SE147.html	---		毎月			水質測定記録	○ 適合を確認	※1週間毎測定
土壌汚染対策法	・特定施設使用廃止時に土壌の調査を実施	第二章 第三条 http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H14/H14HO053.html	汚染状態調査結果の報告	排水処理設備(TC)	特定施設使用廃止時	山形県知事		汚染状態測定記録		
公害防止管理者法	・公害防止管理者の選任	（特定工場における公害防止組織の整備に関する法律） 第七条 http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S46/S46HO107.html	水質汚濁の有資格者 （除害施設管理責任者選任届出書）	---	管理者変更時	---		届出書	○ 変更無	H19.2.23 TC和田
	・事故時の応急措置、届出	（特定工場における公害防止組織の整備に関する法律） 第四条、第六条	---	---	事故発生時	---		事故の有無	事故無	

法規制等の名称	該当する要求事項	該当条文	関連条文による規制	該当する設備・項目	点検・測定頻度、時期	届出・報告先	管理責任者	遵守の評価 証拠	遵守の評価 判定	備考 届出日等
毒物および劇物取締法	・製造販売の届出	第四条 http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S25/S25HO303.html	---	U薬剤製造エリア（C棟）	更新時（製造5年販売6年）	山形県知事	TC 和田	届出書		
	・毒物劇物取扱責任者の届出	第七条	毒物劇物取扱者試験に合格した者、資格取得者	薬品保管庫（TC） U薬剤製造エリア（C棟）	設置・変更時 30日以内				○	H5.3.5 鈴木（実）
	・取扱者の届け出	第二十二条	ｼｱﾝ化ﾅﾄﾘｳﾑ取扱者							
	・取扱、表示	第十一条	盗難・紛失防止措置 飛散・漏れ・流れ出・しみ出 施設の地下に染み込み		---	---		運用状況	---	---
		第十二条	容器および被包への表示							
	・廃棄	第十五条の二	政令における技術上の基準に従う		---	---		---	---	---
	・事故時の応急措置、届出	第十六条の二	---		事故発生時	警察又は消防		事故の有無	---	---
大気汚染防止法	・ばい煙発生施設の届出	第二章 第六条 http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S43/S43HO097.html	燃焼能力が重油換算で50ℓ/h以上又は電熱面積10m^{2}以上	1号灯油ﾎﾞｲﾗｰ(A棟) -66.7ℓ/h 2号灯油ﾎﾞｲﾗｰ(C棟) -68.7ℓ/h ※6ヶ月以上の停止期間あり	新設・変更時	山形県知事	総務課 賦船	届出書	○ 新設・変更無	A:H29.9.6 C:H12.10.24
	・規制基準の遵守 測定及び記録 (3年間保管)	（施行規則） 第十五条 2 http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S46/S46F03602003001.html	ばい煙量 ﾀﾞｽﾄ濃度量 硫黄酸化物量 窒素酸化物量		1回/年 （4月）	---		計量証明書	○ 適合を確認	A：R2.3.17 （No.1965） C：R.2.3.17 （No.1966）
	大気汚染物質排出量総合調査票の提出	環境省が3年ごとに実施 http://www.env.go.jp/air/osen/law/irai	---			環境省		調査票	調査無	

１１．環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無

法規制等の名称	該当する要求事項	該当条文	関連条文による規制	該当する設備・項目	点検・測定頻度、時期	届出・報告先	管理責任者	遵守の評価		備考
								証拠	判定	届出日等
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・保管基準の明示 (飛散、流出)	(施行規則) http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S46/S46F03601000035.html	60cm×60cm以上の表示	廃油、スラッジ、木屑、廃プラ	1回/年	---	総務課 賦船	保管状態、保管量	○	
	・収集運搬・処理業者との契約(契約書の保管は5年間)	(施行規則) 第八条の四の三	---	一般廃棄物、産業廃棄物、特管産廃				契約書 許可証	○	
	・マニフェストの交付	(施行規則) 第八条の二十	---	産業廃棄物、特管産廃				廃棄物取扱業者 許可No.にて確認		
	・ﾏﾆﾌｪｽﾄの保管 (5年間)	(施行規則) 第八条の二十一の二	---	B2、D、E票						
	・マニフェストの確認	日本産業廃棄物処理振興センター 学ぼう産廃(4) http://www.jwnet.or.jp/waste/knowledge/manifest.html	---	A票とB2、D、E票の照合						
	・所定期限内でのマニュフェスト返付確認	日本産業廃棄物処理振興センター 学ぼう産廃(2)	返付が無い時報告	【産業廃棄物の場合】 B2、D票-90日以内 E票-180日以内 【特管産廃の場合】 B2、D票-60日以内 E票-180日以内		山形県 知事		各業者別マニフェスト	○	
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	第十二条の三第七項 http://www.houko.com/00/01/S45/137.HTM http://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/050010/waste/manifestreport.html	4/1-3/31までの交付の産業廃棄物管理票の状況について6/30まで提出	廃棄物取引業者の全て				報告書	○	R2.5.25
	特別管理産廃物管理責任者	第十二条の二の第八項 (環境省) http://www.env.go.jp/recycle/waste/sp_contr/	廃酸pH2以下、 廃ｱﾙｶﾘpH12.5以上	強酸・強アルカリ液	選任・解任時	(公)日本産業廃棄物処理振興センター		修了証	○	H25.9.19諸田 (913060016)

法規制等の名称	該当する要求事項	該当条文	関連条文による規制	該当する設備・項目	点検・測定頻度、時期	届出・報告先	管理責任者	遵守の評価		備考
								証拠	判定	届出日等
消防法	・対象設備の届出	(危険物の規制に関する政 第二章 第六条、七条 http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S34/S34SE306.html	指定数量以上の危険物貯蔵所の設置・変更許可	灯油地下タンク 工場棟 6,000ℓ TC棟　1,900ℓ	新設・変更時	米沢市 消防本部	総務課 賦船	届出書 (許可証)	○ 新設・変更無	H12.9.7 (第121-18号)
	・設備の定期点検及び記録(3年間保管)	消防庁からの通知 http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi0912/091205yo192.pdf#search='%E6%B6%88%E9%98%B2%E5%B3%95+%E8%A8%98%E9%8C%B2%E4%BF%9D%E7%AE%A1%E6%9C%9F%E9%99%90'	---	設備機能点検 気密漏洩点検	1回/年 (10月)	---		地下タンク定期点検報告書	○ 適合を確認	A:H30.10.15 TC:H30.10.16
	・危険物保安監督者の選任	第十三条第一項、第二項 http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S23/S23HO186.html	選任・解任の届出	---	選任・解任時	米沢市 消防本部		届出書	○ 選任・解任無	H20.9時田
		第十三条第二十三項 http://zukai-kikenbutu.com/hourei/2-hoankousyuu.html	保安に関する講習受講	危険物取扱保安講習会	1回/3年	---		危険物取扱者免状	○	H30.11.30 時田
		http://zukai-kikenbutu.com/hourei/2-menjyou.html	免状の書換え	危険物取扱者免状	1回/10年	---		危険物取扱者免状	○	H35.9.10迄 時田
	・少量危険物貯蔵取扱い届出	https://www.kikenbutu.biz/blog/2015/03/31/168	指定数量1/5以下	少量危険物貯蔵取扱い届出 ※指定数量1/5以上の場合	新設・変更時	米沢市 消防本部		届出書		
	・指定可燃物の指定数量以上の届出	(危険物の規制に関する政 第一条の十二(別表第4) http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S34/S34SE306.html	指定数量3,000kg以上 ※指定可燃物保管量50t未満	指定可燃物である合成樹脂、可燃性固体類	新設・変更時	米沢市 消防本部		指定可燃物貯蔵取扱い届出書	○	H19.3.2済み
フロン排出抑制法	・簡易点検の実施 記録の保管 ・定期点検の実施 記録の保管	http://www.env.go.jp/earth/ozone/cfc/law/kaisei_h27/F_law-01.pdf	圧縮(冷媒)機の出力7.5kW以上 圧縮(冷媒)機の出力7.5kW以上50kW未満	エアコン・コンプレッサーなど	1回/3ヶ月 1回/3年	---		点検記録	○	
水銀使用製品産業廃棄物	・産業廃棄物保管基準の遵守 ・ﾏﾆﾌｪｽﾄの交付	http://www.env.go.jp/recycle/h3103_guide2.pdf	環境省令で定める水銀使用製品廃棄物	蛍光灯、水銀灯、体温計など	---	---		ﾏﾆﾌｪｽﾄ	○	2020/5/26 搬出

評価の結果、関連法規制等の違反は無かった。
関係当局より違反等の指摘はありません。

１２．代表者による全体評価と見直しの結果

代表者による全体評価と見直しの結果は、下記の通り。

代表者による全体の評価と見直し記録

(定期見直し:毎年12月)

見直し実施日:R2年11月30日

代表者	環境管理責任者
宮下	時田
2020.11.30	2020.11.30

見直しに必要な情報		変更の必要性の有無・指示事項
環境管理責任者の報告	環境管理責任者のコメント・提案	米沢事業所　所長
『取組状況の評価結果』 ①環境関連法規制の遵守状況 ・評価を実施した結果、全ての事項で遵守されている。 ②取組状況の確認及び問題の是正 ・適切に処理されており、問題は無い。	**『環境方針』** 従来通りの方針を軸に環境経営活動を継続する。 **『取組み状況の定期評価』** 定常的に取り組みが行われているが、コロナ禍による影響が少なからず生産減として表れている中で、取り組み目標を達成できない項目が目立った。更なる対応の検討が必要。	**『環境方針』** 運用上支障なく機能しており、環境方針の変更は必要ないと判断する。 **『取組みの適切性』** 特に問題はなく、適切に行われていると判断する。 変更の必要性:　有　(無)
『目標・環境活動計画の達成状況』 目標値に対する評価 ①二酸化炭素排出量の削減　△:達成率88% ②ﾘｻｲｸﾙ率の向上(総ﾘｻｲｸﾙ率)　△:達成率74% ③廃棄物排出量削減　○:達成率99% ④水使用量の削減　◎:達成率114% ⑥地域社会との共生　○:達成率98%(全員参加) ⑦化学物質適正管理　○:達成(事故ｾﾞﾛ) ⑧製品･ｻｰﾋﾞｽに関する環境配慮　○:顧客要求対応100%	**『目標・環境活動計画』** 各部署の活動は定常的に行われているが、維持活動が多く、そこから一歩踏み込んだ活動を検討・模索する必要がある。来期は取り組み目標が達成できるように、各部門別活動に一層力をいれて良い結果が表れる取り組みとしたい。 特に、リサイクル率の向上は直接コスト減につながる項目であり、効果が小さい活動でも着実に行っていきたい。	**『システムの有効性』** 実行責任者を先頭に数値での管理が行われ、目標値をクリアしない場合には各自で対処ができるなど、取り組みへの活動が慣れてきた様子が伺える。今後も継続した活動を期待する。 変更の必要性:　有　(無)
『周囲の変化の状況』 ①外部コミュニケーション ・ユーザーからの要求事項への対応済み。 ・その他、環境に関する苦情・訴訟は無かった。 ②環境関連法規制等の動向他 特に変化なし。	**『環境経営システムの維持向上について』** 様々な内容の活動や知見を共有する場を設け、実行責任者を始めとした活動展開をPDCAで回せるように仕掛けていく。 外部コミュニケーションの情報も有効に利用し、社内展開できるものは検討していきたい。	**『環境経営システムの各要素』** 今期から新しい実行責任者へ人員配置を行っている。活動への認識を浸透させるとともに、新しい見方で活動が進むよう、取り組みを進めていく。 変更の必要性:　有　(無)